

「ワクワク」に勝る力はない

想いをカタチにするのは、簡単ではありません。では、どうすればいいのでしょうか。そんな問いを、「ワクワクする社会づくりを目指し、異動する公務員」、吉弘拓生さんに投げかけました。

飯南町初上陸。まちづくりのアイデアにワクワクが止まらない。

私が初めて飯南町を訪れたのは令和元年の10月でした。飯南町が主催する人材育成講座「ヒトカラ」に講師としてお邪魔したんです。

「役場と住民の距離がものすごく近い」というのが第一印象で、住民と役場職員が一緒になって学ぶスタイルは衝撃でした。

約半年の講座の集大成で、参加者のまちづくりのアイデアを聞いた時、「この先どう進化していくんだろう」というワクワクが止まりませんでした。そんな矢先、新型コロナウイルス感染症が拡大し、アイデアを行動に移すタイミングでブレーキがかかったのを覚えています。

アイデアには1円の価値もない。行動して初めて価値になる。

最近、飯南町以外でも講座を持つことが増えてきました。「こんなことをやりたい」と思う人はものすごくいるんですけど、それを行動に移す人が1パーセントもいません。まちづくりに対して意見を言うことが目的になっている感じです。

そこで、「どんなふうにやってみますか」と聞くと、「えっ」みたいになることも。理想だけを語る「絵に描いた餅」で終わっていることが多いです。

そもそもアイデアに価値はないんですよね。それをやってみた結果が良くても悪くても、やってみたことに価値があるんです。だから「こうあったらいいな」って頭の中で考えるだけだと、何も変わらないですよ。

自分に身近なところからやってみる。いつの間にか仲間が集まってくる。

いきなり理想まで行こうとすると、かなり抵抗が出てきます。でも、自分の暮らしに身近なこと、大切な誰かのためだったら、きっと行動するはずですよ。

私の例だと、森林セラピーの立ち上げです。実家が製材所で、幼い頃から「材木が売れなくなる」「安くなる」



「飯南町ってなんかおもしろい。いい意味でまちがつくられてないのかも」と吉弘さん(ヒトカラ)

たくお
吉弘拓生さん(41歳)
(一財)地域活性化センター新事業企画室長。総務省地域力創造アドバイザー。内閣官房地域活性化伝道師。内閣府企業版ふるさと納税マッチング・アドバイザー。浮羽森林組合、うきは市役所を経て、群馬県下仁田町副町長(史上最年少)を務める。福岡県久留米市出身



みたいな話をずっと聞かされていたんです。そこで、森林セラピーを導入すれば、木が立っていることに価値が生まれるし、歩いた人の健康につながっていく。そんな仮説があったんです。わざわざつくるとかはなくて、あるものをどう活かすか。

でも、初めは99パーセントの人が反対で、「そんなことはどこかの誰かがするものなんだ」って。でも、どうしてもやりたいから1年ぐらいかけて、いろんな人と話をしました。ある時、地区の集まりで、一番反対していた区長さんが「おれたちも何かせんといかんんじゃないか。今日からおれは応援しようと思う。自分たちが行動せんと、村がなくなるっちゃんやろうか。どげんね?」って。それから、みんなが前向きに考えるようになりました。可能性が少しでもあるなら、やってみるべきじゃないですかね。

自身の未来、まちの未来をどうしたいですか?

皆さんは、コロナ禍の3年間をどう過ごしましたか。これから数年間をどう過ごしていきたいですか。コロナも明けて、いい意味でゼロベースです。

別に大きくなくても、ちょっとしたことでいいんです。家のこと、自分自身のこと。でも、そこに「ワクワク」を忘れちゃいけない。

自分がどうありたいか。地域をどうしたいか。それを他者に話して、一人でできないことを誰かとやっていく。それが、まちの未来を切り拓くことにつながるのではないでしょうか。



大学に戻って参考文献を漁る内田さん。なんだか赤名のまちが恋しそう



「乗るならバイク。見るなら車」といほどの旧車好き。かつこよすぎてついパシャリ(昭和の車 in 飯南町)



赤名地区のイベントに徹底参加の内田さん。今日は「銀山街道ウォーキング」で大好きな歴史を紐解きに

「楽しい」がもたらす好循環

これからの暮らしを維持するために「居住者」が動くべきと答えた人が大多数の赤名連坦地。「でも、動く人はいつも同じということも明らかになりました」と内田さんは話します。

暮らしを維持するために何をすればいいか。「こんなふうに変えたい」と、急に頭も体も動かなくなりやすそうですね。私だってそうなります」と内田さん。「だから、もっと身近なところで、楽しいことから始めればいいんじゃないですかね」と続けます。

「家から出て誰かと話してみたり、ちょっとしたイベントに参加してみたり。麻雀だつていいじゃないですか。小さなことでも、積み重なれば大きな動きになるはず。それが結果的に、地域のにぎわいや見守りにつながっていきなりするんです」。



大学で本格的に始めた馬術。馬とうまく意思疎通できた時の気分はまさに「FUN」



卒業論文の制作もいよいよ大詰め。友達とおしゃべりしながら指先はフル稼働

大学に戻る「飯南ファン」

内田さんにとって、長いようで短かった1カ月間。お世話になったのは、赤名連坦地の人たちだけではありませんでした。町内のお店に連れて行ってもらったり、家でお酒を飲ませてもらったり、泊まらせてもらったり。「来るもの拒まず」は、飯南町全体に根付いていると実感したそう。

「その雰囲気をもっと活かしていけば、もっと素敵なまちになるはずですよ。私自身、飯南町のFAN(ファン)になりました」と話します。

もともと人と話すのが大好きな内田さん。なぜかというところ、知らないことに出会えるのが楽しいから。「飯南ミライばなし」で、久しぶりに皆さんに会えるのを楽しみにしています」と言っていて、赤名連坦地を後にしました。

まちづくり座談会 飯南ミライばなし

～「いつか」じゃなくて「今」話そう!自分とまちの未来の話～

- [事前説明] 飯南町総合振興計画とこれまでの取組
- [グループセッション] になりたい自分と飯南町の姿(10年後)ミライの姿のためにすべきこと
- [意見交換] 町長との意見交換

参加募集

11/27 19:00~21:00 谷笑楽校

11/29 19:00~21:00 頓原みせん

12/1 19:00~21:00 来島交流センター

12/8 19:00~21:00 赤名改善センター

12/18 19:00~21:00 さつき会館

どの日程で参加してもOK!



web申込フォーム

●定員:30名程度(1会場) ●申込方法:web申込フォーム、電話(76-2864)、FAX(76-2221)、役場窓口。当日参加可